様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １１ 日現在

機関番号：２３８０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ０２５９７

研究課題名（和文）移民・郊外・記憶－女性作家から考察するフランス語マグレブ文学

研究課題名（英文）Immigration, Suburbia, Memory - The Maghrebian literature in French examined through women writers

研究代表者
石川　清子（Ishikawa, Kiyoko）

静岡文化芸術大学・文化政策学部・名誉教授

研究者番号：３０３２９５２８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：マグレブ（北アフリカ諸国）を背景にもつ女性の書き手のフランス語文学（主に小説）や映画を「移民」「郊外」「記憶」という鍵語の下に読解、分析し、今日のポストコロニアル文学、世界文学、移動の文学が提言する問題を共有するさまを明らかにした。アシア・ジェバール、レイラ・セバール、ヤミナ・ベンギギらの作品研究を通じて論文、口頭発表、翻訳、著書のかたちで研究成果を発信した。旧植民地出身の作家かつ女性であるという点に焦点を当て、作品に見られる伝統の継承と断絶、過去の歴史の記録、新たなアイデンティティ構築という「越境」がもたらす普遍的営為を確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
近年、日本でも注目されるようになったフランス語圏文学をマグレブ地域に特化して考察を深化させた。フランスの旧植民地だったこの地域を出自にもつ、とりわけ女性作家に注目して、その独自性に焦点を当てた。学術的にはポストコロニアル研究、フェミニズム研究の面から貢献できたと自負する。社会的には、日本には馴染みの薄い北アフリカ地域の文化や文学を紹介できた。翻訳による文学作品の紹介は、文学研究の重要な役割である。

研究成果の概要（英文）：This research analyzes literary and visual works (mainly novels and films) by women writers from Maghreb (North African countries) under the key terms of "immigration," " suburbia," and "memory," and reveals how they share the issues raised by today's postcolonial studies and feminism. We published articles, oral presentations, translations, and book chapters through the works of Assia Djebar, Leila Sebbar, Yamina Benguigui, and others. Focusing on the aspects of the creation of these female artists using French, their former colonizer's language, we confirmed their activities of "crossing borders" such as the inheritance and breakdown of tradition, the recording of individual and collective history, and the construction of new identities, which are seen in their works.

研究分野：現代フランス文学

キーワード：女性　移民　記憶　郊外　アシア・ジェバール　レイラ・セバール　ヤミナ・ベンギギ　翻訳

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景
近年、「フランス語圏文学」が単に「フランス文学」を補足し、それに従属するものではなく、独自の豊饒さを内包し様々な問題系を提示する文学であることが認識されている。また、その発信地や作家の出自の多様性ゆえに、単に出身地域をもとに区分できない、人々の移動による地域と言語の複雑な混淆を生み出している。大きく様相を変えつつあるフランス語マグレブ文学であり、旧植民地としてフランスの支配下にあった影響が第一世代の作家だけではなく次世代以降の作家にも認められる。なかでも、フランスにおけるマグレブ系移民第二世代の作品は、ポストコロニアル的な現在の問題系を深く刻印している。さらに、女性作家の作品からはマグレブ地域とフランス双方が持つ困難が二重に読み取れる。本研究は日本においてまだ充分に紹介されていないこの文学の上記の側面に重点を置く。

２．研究の目的
２１世紀に入った現在、マグレブ（北アフリカ諸国）を背景にもつ書き手のフランス語文学（主に小説）は発信地、世代、主題、スタイルにおいて多様性を呈し、女性の書き手は著しく増えている。本研究は「移民」「郊外」「記憶」というキーワードのもとに、２０世紀半ばから現在までのマグレブ女性作家の主要作品を具体的、総合的に考察し、今日のポストコロニアル文学、世界文学、移動の文学が提言する問題を共有するさまを明らかにする。とりわけ、移民第二世代の娘–母の絆に焦点を当て、伝統の継承と断絶、過去の歴史の記録、新たなアイデンティティ構築という、「越境」がもたらす普遍的営為を確認する。併せて、今日の歴史学、社会学、文化人類学等の視座と連携する文学研究を方向づける。

３．研究の方法
「移民」「郊外」「記憶」のテーマに沿うマグレブに出自をもつ仏語女性作家の主要作品群の分析を主軸に、以下の作業を予定し行った。それぞれの項目が連携して全体的に統合される。
(1) 作品読解と比較分析による論文執筆
(2) 国内外での学会やシンポジウムでの発表
(3) 国内・海外研究者とのネットワーク作りと共同研究
(4) 翻訳による当該文学の国内紹介
(5) 翻訳予定作家とのコンタクト
(6) 学術図書の準備と刊行
(7) 現地調査

４．研究成果
以下、「３．研究の方法」で分類した(1)～(6)について具体的な成果を述べる。
(1) 作品読解と比較分析による論文執筆：本研究で主要となる三人の女性作家、つまり、アシア・ジェバール（第一世代の作家）、レイラ・セバール（アルジェリア人とフランス人の両親を持つ作家）、ヤミナ・ベンギギ（フランス生まれの移民第二世代作家、映画監督）について論文を複数執筆した。セバールとベンギギについては、「移民」「郊外」「記憶」という３テーマを十分に展開できた。文学に限定せず映像や音楽の表現活動にも言及した。このテーマに関しては、2000 年代以降の新しい「郊外文学」と言われる作家についても触れた。フランスの植民地を中心とする現代史と関連づけて、フランス語圏文学全体の特性も考察した。今回の研究に限らず、これまで発表してきた論考は、先に刊行を予定する単著書籍の下地になっている。その意味で、これまで継続してきた研究と接続する、一貫した視点をもった論考群であるはずである。

(2) 国内外での学会やシンポジウムでの発表：研究会やシンポジウムの口頭発表は機会があればできるだけ発表した。マグレブ文学研究のプレゼンスをアピールできる機会である。海外での発表は、日本における研究を提示する場にもなり力を入れていた活動である。しかし 2020 年春からのパンデミックのせいで、海外渡航の機会がなくなった。この面は想定外だったが、世界規模であらゆる研究者に共通する状況であっただろう。パンデミックはオンラインによる交流という形を生み出し、それはそれで画期的な方法であるが、対面による交流は最新情報の情報交換、予期せぬ遭遇という意味で貴重なものである。国外ではジェバール研究会（フランス）、フランス語圏研究会議（ＣＩＥＦ）での世界大会に参加。国内では、定例となっている研究会の他に、仏文学会や比較文学学会、日仏女性研究学会で新たな発表の機会を得た。いずれにおいても、これらの発表においてジェバール、セバール、ベンギギをメインに当初の研究計画に沿った発表ができた。

(3) 国内・海外研究者とのネットワーク作りと共同研究：国内ではマグレブ文学研究会、現代中東文学研究会をメインに、定例研究会のほか共著での翻訳選集や論集を出した。国内では周縁部に置かれがちな文学の範疇であるが、コンスタントな活動を継続するのが肝要であろう。その意

味でパンデミック下でのオンライン研究会は有効であった。国外での活動が制限されたゆえ、この項目については当初想定した活動ができなかった。特に、アルジェリアで毎年秋に開催されるブックフェアはこの国の書籍流通にとって最大のイベントであり、出版・編集は無論のこと、作品を書く作家本人と接触できる場である。緩やかに開催が再開されつつあるので、これは今後の予定に入れておきたい。アルジェリアのアラビア語地方紙 An Nasr 紙に、日本におけるジェバールの受容についてインタビュー形式の記事を掲載した。アルジェ出身の A.シャウアティ氏主催のジェバール研究会は地道に活動を続け、この会を軸にヨーロッパ、アフリカ、中東、北米の研究者とコンタクトを取れる態勢を整えた。

(4) 翻訳による当該文学の国内紹介：外国語の文学作品を日本で紹介するには、書籍の形での翻訳が不可欠である。文学研究とは作品を解読し分析するのと同じくらい、翻訳という作業が重要であると考える。本研究ではジェバール『乾き』（抄訳）を『中東現代文学選２０２１』に掲載、ベンギギ『移民の記憶』（全訳）を水声社から刊行することができた。また、セバール『ファティマ、辻公園のアルジェリア女たち』の全訳もほぼ終え、近刊とすることができた。ジェバール作品は抄訳であるが、作家の第一小説であり刊行当時はアルジェリアの女性が書いた恋愛心理小説として話題になり、また作家の要目となる作品でもあるので全訳を目指したい。ベンギギ作品は、刊行予定のセバール作品と併せて、フランスにおけるマグレブ系移民を考える際に参照すべき重要な文学作品となるだろう。

(5) 翻訳予定作家とのコンタクト：(4)で示したとおり、本研究中にレイラ・セバール『ファティマ、辻公園のアルジェリア女たち』（1981 年）翻訳の準備も行なった。下訳をほぼ済ませ、著者ご本人とコンタクトを取った。著作権のことで本人に連絡しなくてはならない状況で、そこまでが予想以上に大変な作業だった。連絡が取れてからは、翻訳にあたって多数おたずねしたいことがあったので質問し、丁寧な返事（手書き）を頂いた。翻訳する際は、コンタクトが取れる作家には連絡してまずは挨拶するのが礼儀だと考えているので、セバール氏と連絡が取れたことは自分にとってよいことだった。

(6) 学術図書の準備と刊行：フランス語マグレブ文学研究については、本課題のみならず長年継続してきた。また、この文学自体、フランス文学の横に置かれつつも国内の学術界および読書界で十分受容されているとは言い難い。その紹介、活性化には個人や研究会内での論文や口頭発表での研究活動のみでは限界がある。この文学に特化した書籍を刊行することを自分の研究の一つの目標としてきた。この文学の入門書、概説書としての顔を持ちつつも、これまで焦点を当ててきた女性作家の作品に踏み込んだ内容となるよう、これまで書いてきた論考を軸に、一冊の本とすべく加筆訂正を繰り返し、推敲する作業を本研究の後半の時期を費やした。結果として助成を得て『マグレブ／フランス　周縁からの文学－－植民地・女性・移民』という書籍として刊行できた。日本におけるフランス語圏文学研究の参照資料の一つとなることを望む。

(7) 現地調査：予定として海外現地調査をアルジェリア（アルジェでのブックフェアと市街地調査）とフランス（パリ。作家へのインタビュー、図書館、シンポジウム参加）で行うことを考えていたが、パンデミック拡大ですべて不可能となった。2020 年 2 月、研究会での発表（パリ）の際、フランソワ・マスペロにゆかりのある書店跡などを探索することができたが、マグレブはじめ第三世界の作家や思想家のフランスでの紹介を精力的に行なった出版人マスペロの営為は、本研究の延長上にあると思われ、是非継続したいと考えている。「アルジェリア戦争」「郊外」「移民」の問題系と大きく関わっているはずである。アルジェリアはパンデミック直前の時期に、大統領選をきっかけに全国規模の抗議運動「ヒラク（Hirak）」で大きな変革の時期を迎えた。パンデミックで一旦この流れは停滞している印象を受けるが、これからどうなっていくか、既に文学作品や映画ではこの運動を反映した作品も出ているので、渡航が容易になれば是非調査したい。

その他：2020 年から世界的パンデミックの影響で、海外渡航を伴う研究活動がすべて中断し、本研究も終了までに時間がかなりかかってしまった。しかし、延長した期間においてもオンラインでの情報交換という新しい手段が浮上し、また個人で過ごす時間が多くなったためデスクワーク（翻訳や書籍の準備）により多くの時間を費やすことができた。いずれにしても、従来の研究スタイルの変更を余儀なくされ、またそれを見直してより快適で適切な方法、手段、スタイルを見つけていくことが肝要であろう。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 石川清子	４．巻 133
２．論文標題 アルジェリアに由来する女性作家ーアシア・ジェバールを中心に：報告要旨	５．発行年 2021年
３．雑誌名 女性情報ファイル	６．最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 石川清子	４．巻 －
２．論文標題 書評 ブアレム・サンサール『ドイツ人の村　シラー兄弟の日記』（青柳悦子訳、水声社、2020年）	５．発行年 2020年
３．雑誌名 日本ヴァレリー研究会ブログ	６．最初と最後の頁 ー
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 石川清子	４．巻 30
２．論文標題 北アフリカフランス語小説を訳しながら－「翻訳」をめぐる二つのこと－	５．発行年 2019年
３．雑誌名 文化と芸術（文化・芸術研究センターニュースレター）	６．最初と最後の頁 5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 石川清子	４．巻 423
２．論文標題 マグレブ文学翻訳叢書《エル・アトラス》	５．発行年 2019年
３．雑誌名 地中海学会月報	６．最初と最後の頁 7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石川清子	4．巻 2
2．論文標題 フランスのマグレブ系移民　〈憎しみ〉や〈服従〉から遠く離れて――はざま、亀裂としての〈郊外〉を読む	5．発行年 2018年
3．雑誌名 中東現代文学リブレット「現代世界－欧州・中東－を《文学》から考える	6．最初と最後の頁 64-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石川清子	4．巻 1
2．論文標題 ラジオを聴くフランスのマグレブの母たち（とその娘たち）　――ヤミナ・ベンギギの作品から――	5．発行年 2019年
3．雑誌名 「ワタン（祖国）とは何か　中東現代文学における Watan/Homeland 表象	6．最初と最後の頁 176-193
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石川清子	4．巻 29
2．論文標題 フランスで「移民」が／について書くということ――マグレブ移民をめぐる文学	5．発行年 2017年
3．雑誌名 立命館言語文化研究	6．最初と最後の頁 15-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 石川清子	4．巻 18
2．論文標題 L'exil et l'ecriture: Fatima ou les Algeriennes au square de Leila Sebbar／アルジェリアから遠く離れて：レイラ・セバール『ファティマ、辻公園のアルジェリア女たち』	5．発行年 2018年
3．雑誌名 静岡文化芸術大学紀要	6．最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　4件／うち国際学会　2件）

1．発表者名 石川清子
2．発表標題 アルジェリアに由来する女性作家――アシア・ジェバールを中心に
3．学会等名 日仏女性研究学会（表象の会研究会）（招待講演）
4．発表年 2021年

1．発表者名 石川清子
2．発表標題 これまで読んできたディブ作品
3．学会等名 マグレブ文学研究会
4．発表年 2020年

1．発表者名 石川清子、青柳悦子、鵜戸聡
2．発表標題 ワークショップ：わたしのなかのアルジェリア―多声と多形の作品創造
3．学会等名 日本フランス語フランス文学会
4．発表年 2019年

1．発表者名 石川清子
2．発表標題 ヤミナ・ベンギギ『移民の記憶』にみる息子と父の物語
3．学会等名 中東現代文学研究会
4．発表年 2019年

１．発表者名 Kiyoko Ishikawa
２．発表標題 L’intraduisible dans l’oeuvre d’Assia Djebar
３．学会等名 Le Cercle des amis de Assia Djebar（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 石川清子
２．発表標題 アルジェリア系フランス人映画監督ヤミナ・ベンギギ作品における移民女性
３．学会等名 日本比較文学会第44回中部大会 シンポジウム「女性とメディア」（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 石川清子
２．発表標題 ダリダ、ラジオ、そしてフランスのマグレブの母たち（と娘たち）―ヤミナ・ベンギギの作品から
３．学会等名 現代中東文学研究会「ワタンII総括シンポジウム」
４．発表年 2018年

１．発表者名 石川清子
２．発表標題 Voix croisees et ecriture traversiere dans l’oeuvre de Leila Sebbar
３．学会等名 国際シンポジウム：フランス語によるアラブ＝ベルベル文学における多声／多言語性（ポリフォニー）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kiyoko Ishikawa
２．発表標題 L'exil et l'ecriture: Fatima ou les Algeriennes au square de Leila Sebbar
３．学会等名 CIEF 第31回世界大会（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計4件

１．著者名 石川清子	４．発行年 2023年
２．出版社 水声社	５．総ページ数 414
３．書名 マグレブ／フランス 周縁からの文学――植民地・女性・移民	

１．著者名 中東現代文学会	４．発行年 2022年
２．出版社 プロジェクト・ワタン事務局	５．総ページ数 392
３．書名 中東現代文学選２０２１（うちA.ジェバール『渇き』抄訳）	

１．著者名 ヤミナ・ベンギギ（翻訳）	４．発行年 2019年
２．出版社 水声社	５．総ページ数 277
３．書名 移民の記憶	

１．著者名 石川清子（Amel Chaouati 編）	４．発行年 2018年
２．出版社 Editions SEDIA	５．総ページ数 288
３．書名 Traduire Assia Djebar	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
アルジェリア	An Nasr　アルジェリア地方紙			
フランス	アシア・ジェバール研究会			
アルジェリア	出版社 Editions SEDIA			